

展示室 1 イギリスの肖像画



トマス・ゲインズボロ  
「オース夫人の肖像」

今回は、近代のイギリス絵画のなかから、肖像画と人物画をとりあげてご紹介します。近代イギリスでの主要な肖像画家は、16 世紀のホルバインや 17 世紀のヴァン・ダイクなど、外国人の画家がほとんどでした。しかし 18 世紀になると、ホーガースやゲインズボロ、レイノルズなどのイギリス生まれの優れた画家たちが活躍するようになります。

また 19 世紀後半、エヴァレット・ミレイやロセッティ、バーン＝ジョーンズなどのラファエル前派の画家たちが、中世の伝説や文学に着想を得た詩情あふれる人物画を描き、その後の画家たちに大きな影響を与えたのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホーガース	サムユエル・マーティンの肖像	1758～60 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760～62 頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアム牧師	1790 代初頭	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙
アルバート・ジョセフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914 頃	油彩・キャンバス
フランク・ブランギン	花園	1900 頃	油彩・板
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ピュセル広場のブルトルルド館	1823	水彩・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス

展示室 2 季節の移ろい—夏から秋へ



和田英作「上総風景」

四季の移ろい—日本人は美術や文学の世界でその微妙な空気感を表現してきました。湯田玉水の屏風は 1 点でふたつの季節を感じることができる作品です。筆に絵具(この場合は墨)をたっぷり含ませるか、絞るかで季節感を描き分けています。

命燃える夏、その空は青く、夜もまた昼の熱気を残しつつ更けていきます。やがて、砂浜に誰も見えなくなる秋、収穫を迎え、空気は澄み、来るべき冬を前に最後のぬくもりを輝かせます。和田英作の作品から斎藤与里の作品まで、風景の移ろいを感じてください。

また、植物の季節感がなくなった、と言われる昨今ですが、やっぱり旬というものを感じたいですね。静物や植物を描いた作品も 1 コーナー設けました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
和田英作	上総風景	1897(明治 30)	油彩・キャンバス
石川寅治	房総風景	1923～4(大正 12～3)	油彩・キャンバス
中沢弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正 3)	油彩・キャンバス
南薫造	樹木		油彩・キャンバス 南建氏寄贈
南薫造	浪		油彩・キャンバス 南建氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
和田英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス	
石川寅治	房総風景	1923～4(大正12～3)	油彩・キャンバス	
中沢弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正3)	油彩・キャンバス	
南薫造	樹木		油彩・キャンバス	南建氏寄贈
南薫造	浪		油彩・キャンバス	南建氏寄贈
中川八郎	おぼろ月		水彩・紙	
中川八郎	秋郊		水彩・紙	
浅井忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板	
正宗得三郎	東京の郊外		油彩・キャンバス	
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス	
斎藤与里	海辺秋景	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス	
安藤重春	あんず	1932～7(昭和7～12)頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	笹	1932～7(昭和7～12)頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	庭隅	1985(昭和60)頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
山本芳翠	菊と蕪と蝸牛		油彩・キャンバス、板	
曾宮一念	静物	1918(大正7)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
熊岡美彦	菊と檸檬	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
湯田玉水	夏山驟雨・晩秋暮鴉		墨、岩絵具・絹/二曲一双屏風	

『瀬戸内写生帖』より

### 展示室3 戦後の日本美術

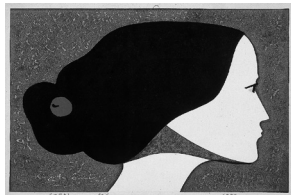


勝呂 忠「混沌」

第二次世界大戦後、人々は未曾有の人為的破壊や喪失への反省と、精神的ダメージからの回復を目指し、新しい社会のあり方を模索しました。日本の美術界においても、戦中の抑圧から解放された美術家たちが、真の表現の自由を尊重し合い、様々な表現の可能性を試みます。1950年代から60年代にかけては、海外の前衛的な美術表現が紹介されて大きな反響を呼ぶなど、美術においても本格的な国際化の時代を迎えました。また、美術家たちにとって、高度経済成長を背景に生じた社会矛盾も大きな関心のひとつとなりました。社会を見据えながら、社会といかに関わり、美術家としてどう表現するか。そうした制作者の真摯な姿勢に裏打ちされた作品は、いまを生きる私たちに多くを語りかけてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・形状	
丸樹長三郎	戦災後	1945(昭和20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
吉井 忠	敗れたる風景	1946(昭和21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
勝呂 忠	混沌	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	
浜田知明	少年兵哀歌	1953(昭和28)	エッチング、アクアチント・紙	
浜田知明	アレレ…	1974(昭和49)	エッチング、アクアチント・紙	
難波田龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	
黒澤吉蔵	ガスタンクのある風景	1956(昭和31)	岩絵具、箔・紙	黒澤吉蔵氏寄贈
佐藤昭一	廃坑	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
瑛 九	構 図	1957(昭和32)	エアブラシ・合板	武田光司コレクション寄贈
土橋 醇	小さな村	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
堂本尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962(昭和37)	油彩・キャンバス	
今井俊満	コンポジション 23	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	
村井正誠	いそぐ人	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	基地の風景(B)	1991(平成3)	アクリル・キャンバス	
高山良策	漁夫	1958(昭和33)	油彩・キャンバス	
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ	
船越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩	

## 展示室 4 戦後の日本版画



斎藤 清「珊瑚」

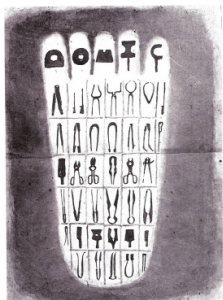
戦後の荒廃から解放された日本の版画界では、新しい時代に適した独自で斬新な表現を求めた版画家が多く活躍しました。彼らは世界の諸都市で開催された国際版画展に出品し、海外の作家と交流を深めました。その結果、これまででない現代的な版画作品が制作され、国内外で高い評価を得ることになるのです。

1951年に開催された第1回サンパウロ・ビエンナーレでは、駒井哲郎と斎藤清が受賞しました。さらに、1956年には棟方志功が、1966年には池田満寿夫がヴェネツィア・ビエンナーレで版画部門大賞の快挙を遂げ、日本の現代版画は国際的な評価を得るに至りました。

版画の可能性を追求した戦後の版画家たちの多彩な表現をおたのしみください。

作者名	作品名	制作年	技法・形状	
小野忠重	工場		木版・紙	
小野忠重	『小野忠重版画集・工場』	1832 (昭和7)	木版・紙/ポートフォリオ	
斎藤清	珊瑚	1955 (昭和30)	木版・紙	
斎藤清	青沼、裏磐梯、会津	1955 (昭和30)	木版・紙	
福田利秋	福寿草	1967 (昭和42)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
福田利秋	弁財天	1976 (昭和51)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
福田利秋	茜雲	1976 (昭和51)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
福田利秋	ひまわり	1983 (昭和58)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
福田利秋	双体道祖神	1991 (平成3)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
浜口陽三	西瓜	1981 (昭和56)	メゾチント・紙	
駒井哲郎	花とレモン	c.1974 (昭和49頃)	モノタイプ・紙	
吉田穂高	昼の国々	1966 (昭和41)	木版・亜鉛凸版・紙	
吉田穂高	ミニ・ランドスケープ	1972 (昭和47)	木版・亜鉛凸版・紙	
斎藤寿一	魚	1958 (昭和33)	ディープエッチング・紙	斎藤聆子氏寄贈
池田満寿夫	樹木	1961 (昭和36)	ドライポイント、ルーレット・紙	
池田満寿夫	赤いセーターの女	1962 (昭和37)	ドライポイント・ルーレット・紙	
秀島由己男	『静物考』(南天子画廊)より1点	1985 (昭和60)	メゾチント・紙/ポートフォリオ	
柄澤齊	『死と変容 I 夜』より1点	1988 (昭和63)	木口木版・紙/ポートフォリオ	
中林忠良	囚われる日々	1974 (昭和49)	エッチング、アクアチント、メゾチント、ディープエッチング・紙	
東谷武美	ペピーノの実	1988 (昭和63)	リトグラフ・紙	
東屋武美	日蝕U	1989 (平成元)	リトグラフ・紙	
岩谷徹	宴のあと (大)	1980 (昭和55)	メゾチント・紙	
安部直人	まなざし	1990 (平成2)	エッチング、メゾチント・紙	

## 展示室 4 小特集 佐藤潤四郎のスケッチ



佐藤潤四郎  
「ガラス工具曼荼羅」

生活に深くかかわる器や道具たちは、私たちの日々の暮らしを豊かに彩る役割も果たしています。もともと工芸作品には、目をたのしませ、心を和ませるような色やかたち、質感などと同時  
郡山市出身のガラス工芸作家、佐藤潤四郎は、絵画の名手でもあります。彼は自画像や窯場の風景、そして仏足跡などを主に墨で描きました。彼のスケッチは、ふんわりとでもいったらいいでしょうか、潤四郎の優しい人柄がそのまま線とにじみになって出てきたようです。スケッチを見る私たちは、彼独自のキャラクターであるガラスの神様に導かれたかのように、ついなごんでしまいます。

彼の眼差しが、ガラスの神様になっている職人たちに注がれていることも大事なことでしょう。自分がデザインしたものに形を与えていくガラス職人たちへの深い感謝の気持ちはもちろんですが、彼らの姿がまた潤四郎の創造の源のひとつになっていることも私たちは忘れてはならないでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	ガラスの神様になった私		墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ガラス工場外観 1		水彩、墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の風景 2	1951 (昭和 26)	水彩、墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の風景 3	1951 (昭和 26)	水彩、墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の風景 4	1953 (昭和 28)	墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の風景 12	1951 (昭和 26)	墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の神々 1		水彩、墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・象形文字 (羊)	1984 (昭和 59)	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984 (昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984 (昭和 59)	ガラス/エッチング、サンドブラスト	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	魚 (オレンジ)、魚 (ブルー)	1973 ~ 76 (昭和 48 ~ 51) 頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980 ~ 82 (昭和 55 ~ 57) 頃	ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980 ~ 82 (昭和 55 ~ 57) 頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	置物・花	1954 (昭和 29) 頃	ガラス/サンドブラスト	
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973 ~ 76 (昭和 48 ~ 51)	ガラス/宙吹、サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		ガラス/宙吹・エッチング	
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	瓶・ガラスの神様		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて (樹)		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹・サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	石仏・地藏		水彩、墨、木炭・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・比翼の鳥	1975 (昭和 50)	陶器	内藤雅夫ご夫妻寄贈
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	仏足跡・ガラス工具曼陀羅		水彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	硝子の女神	1982 (昭和 57)	ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	窯場の神々 2		水彩、墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	陶皿に描く		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	窯と仏手とゴブレット		水彩、木炭・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	寄託作品

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階				
アントニー・ゴームリー	量子雲 X X III / 領域 X III	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963 (昭和 38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
● 2 階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1・2 / 石で仏足跡		陶器/石	寄託作品
細川宗英	道元	1972 (昭和 47)	ブロンズ	
高田博厚	アラン像	1932 (昭和 7)	ブロンズ	
堀内正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄・セメント	
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	